

# 「美作地区の里親制度を推進するために」

～美作地区里親会への支援を通じて～

To promote the foster-parent system of the Mimasaka district  
Through support to the Mimasaka District Foster Parent Society

有岡道博\*

Michihiro ARIOKA

## 1. はじめに

現在、様々な事情で親が育てることができない子供たちは、社会的養護と呼ばれるシステムで育てられている。社会的養護は、大きく分けて里親等の家庭的養護と養護施設などの施設養護に分けることができる。厚生労働省は家庭的養護の長所を理解し、里親委託ガイドライン<sup>1)</sup>を作成し優先的に里親へ子どもたちを措置している。<sup>2)</sup>

しかし、「児童家庭福祉」の授業の中で、美作地区里親会会長よりお話を伺ってみると、「美作地区の里親数は近年減少傾向にあり、会では里親の登録数の増加について努力している」、「里親会の行事を行うことが負担となっている」、「全国的に里親のリクルートと支援が大きな課題となっている」<sup>3)</sup>、「NPO等の里親支援機関ができつつあるが、美作地区では十分機能を果たしているとは言い難い」等の課題があることが分かった。

そこで、平成26年4月より里親・里子の支援を目的として「美作大学里親・里子支援サークル」(里親・里子サポーターズ)を立ち上げ、美作地区里親会の支援を行ってきた。学生の里親支援組織は全国的にも珍しく、今後の里親支援活動のモデルとなるものと考えている。以下に1年間の活動を振り返り、活動の成果と課題を述べる。

## 2. 活動対象者・支援者

(1) 対象者

- ①里親 15世帯
- ②里子 20名前後 (措置の状況により異なる)
- ③施設利用児童  
津山市内の3ヶ所の児童養護施設 約100名

(2) 支援者

- ①里親・里子支援サークル(学生) 13名

(3) 支援機関

- ①岡山県津山児童相談所
- ②児童養護施設(里親相談員1名)

## 3. 方法(具体的支援内容)

(1) 里親・里子支援サークル定期会議

(毎月最終木曜日 16:00~17:30)

里親、施設職員、学生で活動の企画運営を検討する。

(美作大学で開催)

(2) 美作地区里親会の行事の支援

①6月 里親サロン旅行

「蒜山 搾乳体験とジンギスカン」

・レクリエーション ・託児 ・付き添い

里親 15名 里子 13名 学生 12名

②10月 里親会全国大会(岡山)運営の支援

・準備 ・託児 ・受付

③12月 クリスマスプレゼント作成と配布

- ・クリスマスカード作り ・クッキー作り

④1月 里親心得座談会の支援（里親養成講座）

- ・準備 ・託児

⑤2月 里親サロン一泊旅行

（香川・愛媛方面）

里親 15名 里子 10名 学生 4名

- ・レクリエーション ・託児 ・付き添い



写真1 里親サロン蒜山旅行

(3) サークル独自行事

①8月 里親・里子交流キャンプ

- ・久米南町美しい森で岡山県下の里親・里子を対象にキャンプを計画。（台風で中止）

里親 25名 里子 15名 学生 15名

②10月 大学祭招待

- ・大学祭（白梅祭）に里親・里子さんを招待

③12月 児童養護施設の訪問

- ・クリスマスケーキとクリスマスカードを持って児童養護施設を訪問



写真2 養護施設クリスマス訪問

(4) その他

①研修会

社会的養護や子どもに関する研修を随時行う

10月「児童養護施設の子どもの就労を支援する」

一般社団法人ひだまり理事長 中嶋 進一氏

里親、施設職員等 50名程度参加

4. 結果と考察

(1) 活動の成果

児童相談所職員、里親支援専門相談員とともに1年間にわたり美作地区里親会の活動を支援してきた。その成果としては以下のことが考えられる。

①里親・里子にとって

- ・学生とのつながりや信頼関係が築けた
- ・里子同士の交流や他の里親との交流ができた

⇒里子同士や里親と交流することで、これからの生活や目標を確認することができ、仲間意識が高まった。また、学生との新たな人間関係を結ぶことにより、社会へ出ていくための準備体験ができた。

- ・里親のレスパイトの時間ができた
- ・里親会の行事を運営する負担が少なくなった
- ・里親のリクルート活動がやりやすくなった
- ・里親登録数の増加 5世帯増加 (33%増加)

⇒学生が積極的に里親会の活動を支援することによって、これまで里親の負担となっていた里親会の運営業務の一部がなくなり、里子とともに行事で楽しめる時間が増えた。また、学生が独自に里子対象の新たな行事を企画・実施することにより、里親だけの交流の時間を持つことが増えレスパイトケアの役割も担っている。

一番の成果は、里親会本来の業務である里親の支援、里親制度の啓発と里親数の増加に会の力をまとめて注ぐことができたことである。これまで年々減少していた美作地区の里親数も、里親会役員の熱心な活動により、初めて増加に転じることができた。

②学生にとって

- ・実際に子どもたちに接する経験ができた
- ・活動を実施するうえで責任感が身についた
- ・他者に対する思いやりが持てた

- ・知識不足から学習意欲の向上があった
- ・活動のやりがいを体験することができた
- ・社会人としての自覚に目覚めた
- ・支援活動の結果として里親会の次年度の活動業務を一部委託された

⇒大学で学ぶだけでなく、実際に支援を必要としている子ども達に接することにより、子どもたちが何を必要としており、支援者はそれを叶えるために何をしなくてはならないのかを学ぶことができた。知識不足や個人情報の保護の厳しさに接し、学習の大切さや里親・里子支援の大変さを自覚することができた。

何よりも、子ども達や里親から感謝されることにより、支援のやりがいを感じ、より一層の学習意欲とソーシャルワークに対する興味・関心を持つことができた。

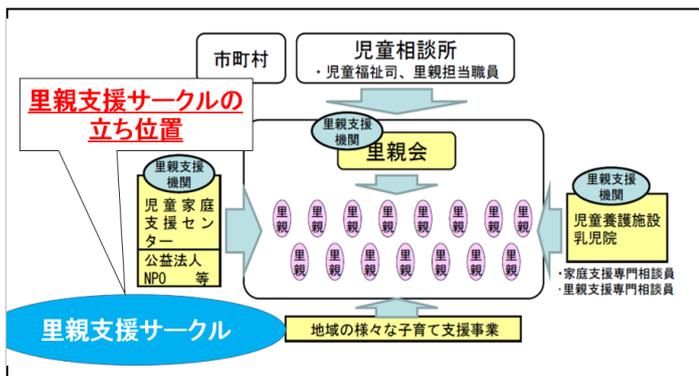


図1 里親支援サークルの立ち位置

### ③地域のネットワーク形成

- ・児童相談所とのつながりがより太くなった
- ・児童養護施設の里親支援専門相談員との連携が取れるようになった
- ・岡山県下の他の地区の里親会とも連携ができた
- ・児童家庭支援センターとのつながりができた
- ・里親・里子支援団体として認知されてきた

⇒児童相談所・里親支援専門相談員とともに里親支援を続けるうちに、ネットワークの形成が徐々にできた。また、県南の行事の支援等も行った結果、他地区の里親会や児童家庭支援センターとのつながりができた。その結果里親支援団体として認知が高まった。

### (2) 里親・里子支援における課題と対策

#### ①里親・里子の個別性に配慮した支援が必要

⇒個別の学習支援等を計画

#### ②制度や里子の抱える問題に関して知識不足

⇒勉強会の開催、研修会への参加

#### ③活動費用の問題

⇒補助金の申請、里親後援会への申請

#### ④広い範囲に里親家庭が散在

⇒参加しやすいよう柔軟な行事の設定

#### ⑤個人情報の守秘義務

⇒ルールの確認、勉強会の実施

## 5. おわりに

昨年度より活動を始めたが、里親会の積極的な受け入れ、児童相談所、児童養護施設の里親専門相談員の協力もあり、一定の成果を上げられたものとする。

今年度から、美作地区里親会の事務局の一部を担うこととなり、より大きな責任と期待を感じている。そのため、課題に優先順位をつけて取り組み、里親・里子への支援の質を高めていきたい。里親・里子のみなさんの困り感が少なくなり、幸せをより多く感じられるような毎日が送れることを願い支援を行っていく。

最後になりましたが、無償で活動に参加してくれた学生たちに心より感謝いたします。

## 参考文献

- 1) 里親委託ガイドライン 厚生労働省  
平成23年3月20日
- 2) 社会的養護の課題と将来像 厚生労働省  
平成23年7月
- 3) 里親リクルートに関する調査報告書  
厚生労働省 平成27年3月

